

金沢子ども竹灯り

『祝10周年つなぐ灯り～平成から令和へ～』2019

団体名●金沢子ども竹灯り実行委員会・人間科学部こども学科／代表者名●芥川元喜(人間科学部准教授)

はじめに

金沢市内で行われた「金沢子ども竹灯り2019」に、こども学科の学生が運営スタッフとして参画した。こども学科の3年生が企画から地域の方と話し合いを重ね、運営をサポートした。

金沢子ども竹灯りは、金沢市立馬場小学校校下の地域を中心に行われている活動で、独立行政法人国立青少年教育推進機構「子どもゆめ基金助成活動」の支援と、金沢市教育委員会の後援を受け、地域の力で子どもたちを育てていこうとする金沢子ども竹灯り実行委員会が主体となっている。学生ボランティアとしては、こども学科の学生の他にも、金沢大学の馬場小学校校下の雪かきボランティアや金沢町屋学生会議の大学生も参加している。

今年金沢子ども竹灯りは10周年を迎え、今年のテーマは学生たちが地域の方と話し合うなかで考案をした『祝10周年 つなぐ灯り～平成から令和へ～』である。10年間行われてきたこの金沢子ども竹灯りの活動がこれからの10年にもつながっていくように、そんな地域と学生たちの願いが込められている。こうした願いを込めたチラシも学生たちがデザインをした。



こども学科の学生が制作したチラシ(表・裏)

制作交流会(10月6日(日))

制作交流会では、馬場小学校を会場として、卯辰山の「竹」を使った竹灯ろうづくりと、ものづくりの活動が行われ、子どもたちが思いを込めた竹灯ろうの制作を行った。竹灯ろうに貼りつける竹紙に絵を描く活動では、学生が講師の手ほどきを受け、指導された内容を活かして、参加した子どもたちのサポートを行った。



制作交流会で参加児童をサポートする学生

地域交流会では、制作交流会で、子どもたちが制作した竹灯ろうを馬場校下の町中に配置し、子どもたちが、その竹灯ろうの灯りを目印に、町中のチェックポイントを歩いて探すポイントラリーを実施し



た。学生たちは、竹灯ろうを地域の方と相談、協力をして町中に設置したり、チェックポイントで子どもたちと交流したりする役割を担った。子どもたちが歩く馬場校下は、東山ひがし茶屋街もあり、日頃から観光客が多く、人通りも多い場所である。学生たちは、安全面を配慮しながら地域の方と連携して竹灯ろうを設置した。ポイントラリーが始まると、子どもたちは町中を歩き、静かに灯る「竹灯ろう」を見つけると歓声を上げて喜んでいった。

成果、結果の考察

馬場校下の地域の方々と連携し、地域の子どものために活動出来たことは、学生たちの大きな財産となっている。また、企画と運営を地域の方々から任されたことも学生たちにとっては大きな自信につながった。少子高齢化社会とも言われる現代、地域社会で子どもを育てる活動の一環に参画できたことは教員を目指す学生にとって、地域社会の実態を知り、地域社会と学校の連携を考える上でも大切な活動となっている。